

第382回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 2021年10月25日(月)
- 2 開催場所 テレビ新潟本社
- 3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

若杉 隆平 委員長	田村 明子 副委員長
徳山隆太郎 委員	富田 智晃 委員
大久保千春 委員	柳川かおり 委員
本宮 宏美 委員	迫 一成 委員

会社側出席者

代表取締役社長	小山 章司
取締役コンテンツ本部長	寺内 邦彦
コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長	羽田 朗
報道制作局長	竹野 和治
制作部長	須山 司
合評番組ディレクター	内田 拓志
事務局	道場拓哉 吉田 康宏

4 議 題

1) 番組合評

「新潟の挑戦者たち Tokyo2020 それぞれのストーリー」

(2021年8月28日(土) 16:00～16:55 放送)

2) 会社報告

① 9月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、議事概要の公表 (報告：番組審議会事務局)

③ 訂正放送、取り消し放送の有無 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは、「今夏の東京オリンピックは、一年延期されたこと、ほとんどの会場が『無観客』であること、新潟県関連の選手が、13人も出場することなど、『異例づくめ』の大会だった。多くの選手を紹介することでそれぞれの印象が薄まらないように、紹介する順番や分量のバランスを考え、表紙をつけるなど工夫した。共通して見せようと考えたのは、『ポイントとなる技の背景』や『その狙い』。二刀流の平野選手なら『スノーボード』での経験をいかした『スケートボード』の技、小柄なバスケットの富樫選手なら、長身の相手に守られても決められるシュートなど。また、選手たちの少年時代の映像、あるいは昔の素材を盛り込むことで、彼らは新潟で育まれた選手であり、私たちの『誇り』なのだと感じてほしいと考えた。無観客だったため、『選手の頑張り』と『地元からの声援』の『一体感』を盛り込んだ。」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- オリンピックの舞台裏、地元視点での取り上げ方は地域密着の放送局ならではの、それぞれのストーリーもわかりやすくまとまっていて見やすい番組だった。
- テロップの表記が過剰ではなく、すんなり入ってきた。
- ナレーションで選手の名前に敬称をつけていない点が気になった。名字のあとに「選手」をつけてもよかったのではないか。
- 冒頭で平野選手を取り上げ、「つかみ」は良かったが、番組のペースが安定しているが故に、55分が長く感じられた。YouTubeなどの動画を見ることが多くなり、1時間近い番組を見ることが難しくなっていると感じた。視覚だけでなく聴覚に訴える音を加えたり、リズム変えたりすることも必要ではないか。
- タイトルに「Tokyo2020」とあるが、パラリンピックで大活躍した新潟県選手もいた中で、オリンピックだけの番組になっていたのが残念だった。
- 全国放送ではメダルを取った選手とそうでない選手の報道のされ方の違いを大きく感じたが、結果があまり残せなかったとしてもこの番組で県内の選手を多く見ることができてよかった。
- 平野選手、富樫選手の配分が多かった。むしろ、これまであまり取り上げられなかった選手をこの番組でピックアップするのも良かったのではないか。
- メダルが取れたか取れないかという価値観の中では、新潟県勢はあまり目立たず取り上げ方が難しかったと思うが、選手に肩入れしすぎず、地元びいきになりすぎず、さわやかでとてもバランスがよかった。

- 「チャンスは無限大」「水球の日本代表になるという夢を持った自分に『お前が選んだ道は間違いじゃなかったよ』と言ってやりたい」などの言葉は、オリンピックを目指す子供達に勇気を与えた。
- 選手の子供の頃の映像や小学校の卒業文集など地元に着したテレビ局ならではの豊富なエピソードも楽しめた。
- ひとりで一本の番組を作れるほどの選手たちなので、短い放送時間内でまとめるのは難しかったと思うが、感動が分散してしまい、もやもやした感じが残った。
- スポーツはノンフィクションで感動を与えられるキラーコンテンツであり、これからもスポーツにフォーカスし共感を生み出すような番組を続けてほしい。
- 後半は少し端折られたような感じがした。オープニングのオリンピック全体の振り返りを短くしたり、取り上げる選手を選んだりしてもよかったのではないか。
- 国と国とのメダル争いというよりも、身近な地域や知っている社会から世界の舞台に立っている選手の成長の過程や、地域との交わりを伝えるというローカル局ならではの視点に好感が持てた。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

9月……107件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2021年9月27日)から、昨日(2021年10月24日)まで総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

- 7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置
- 1) 前回第381回審議会では、「24時間テレビ44 にいがたスペシャル『その先のミライへ』」を審議いただき、委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
 - 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。
- 8 今回の第382回放送番組審議会の公表
- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
 - 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
 - 3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。
- 9 参考事項（委員への配布資料）
- ・第381回番組審議会議事録
 - ・9月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
 - ・BPO報告（No.230）・民間放送新聞（2189号）

以上